

教師と児童生徒との人間関係づくり

Q4 児童生徒と望ましい人間関係をつくっていくためには、どのような点に留意すればいいのでしょうか？

学校の中における教師と児童生徒との信頼感に基づく人間関係は、教師の日頃の接し方や言葉かけによって作り出すものです。そのためには、様々な点に留意する必要があります。

児童生徒の心や気持ちを汲んで接する

児童生徒をほめるにしても叱るにしても、教師本位の気持ちや感情から行ったり、他の児童生徒や周囲の大人たちを優先したりするのではなく、目の前にいる児童生徒を優先する接し方を工夫しなければなりません。児童生徒自身のためにほめたり叱ったりする教師の接し方が、お互いの信頼関係をつくっていく基本です。

児童生徒を肯定的に見る

他人についての理解を歪める要因の一つに、「光背効果」があります。これは、他者がある側面で望ましい（もしくは望ましくない）特徴を持っていると、その評価を当該人物に対する全体的評価にまで広げてしまう傾向のことです。例えば、学習成績のよい児童生徒は性格や行動面でも肯定的に評価されがちであるのに対して、成績の悪い児童生徒はすべての面で問題があるかのように見られがちになるということです。

児童生徒には、長所も短所もあります。両方をありのままに的確に理解することが大切です。教師が肯定的な見方をすればするほど、そのような姿勢や態度は自然に児童生徒に伝わります。教師が児童生徒をありのままに、また肯定的に見ようとする態度で接することが、人間関係をつくる上での重要な条件の一つです。

児童生徒一人一人に関心を示す

学級担任は、学級という集団場面で児童生徒と接することが多くありますが、結局は、個々の児童生徒を対象にしています。児童生徒は、教師が自分たちに関心をもっているか否かということに敏感に気付きます。児童生徒は、個としての自分が認められていると感じたとき、教師に親しみをもち、自分を認めてくれる教師に信頼関係をもつようになります。

児童生徒一人一人に積極的なかかわりを持つ

児童生徒との人間関係は、日頃から教師が児童生徒に積極的にかかわることによって生まれます。例えば、廊下ですれ違ったときには声をかけたり、あいさつを交わしたりするなどして、児童生徒とのかかわりを積極的にもつことが大切です。

児童生徒に積極的にかかわっている教師の姿を見て他の児童生徒も信頼感を深め、自然なうちに人間関係づくりが進められている例も少なくありません。

教師自身が自己を開示する

教師と児童生徒が信頼し合える人間関係とは、両者が心を開いて安心して語り合える関係です。このような関係をつくるためには、まず、教師自身が自分の心を開いて、率直に話すことが大切です。そのときに活用できるのがアドラー心理学（注）でいう「勇気づけ」のメッセージです。

「勇気をくじくメッセージ」は、短期的に効果があることもありますが、長期的に繰り返されると、悪影響をもたらすことがあります。特に「勝敗や能力に注目する」「褒め上げる」「賞賛し叱咤激励する」などが繰り返されると、本人は他者の価値基準を気にしたり、それで自分を縛ったり、できていない自分を卑下したりすることになりやすいと言われています。一緒に学ぶ、祝福する等、可能性を見続けていく姿勢が大切です。

勇気づけるメッセージ	勇気をくじくメッセージ
貢献や協力に注目する あなたのおかげでとても助かった。 あなたが嬉しそうなので、私まで嬉しい。	勝敗や能力に注目する あなたは本当に有能だ。 えらい、よくやった。
過程を重視する 努力したんだね。 失敗したけど、一生懸命やったんだね。	成果を重視する いい成績だ。私は満足だ。 いくら頑張っても、結果がこれではね。
既に達成できている成果を指摘する この部分はとてもいいと思うよ。 ずいぶん進歩したように思う。	まだ達成できていない部分を指摘する 全体としてはいいが、ここはだめだな。 この部分の工夫が足りない。
失敗をも受け入れる 残念そうだね。努力したのにな。 この次はどうすればいいだろうか。	成功だけを評価する 失敗してはなんにもならない。 いったいなぜ失敗したんだ。
個人の成長を重視する この前よりもずいぶん上手になったね。 少し、後戻りしてもいいじゃないか。	他者との比較を重視する あの人よりもあなたのほうが上手だ。 あの人に負けていてどうするんだ。
相手に判断をゆだねる あなたはどう思う。 一番いいと思うようにすればよい。	こちらが善悪良否を判断をする それはよくない、こうしたほうがいい。 ここはよくできたが、ここはだめだ。
肯定的な表現を使う 気が小さいんじゃないかって慎重なんだね。 謙虚に反省しているんだね。	否定的な表現を使う 気が小さいね。もっと気を大きくもて。 メソメソするんじゃない。
「私メッセージ」を使う (私は) そのやり方が好きだ。 (私は) そのやり方をやめてほしい。	「あなたメッセージ」を使う (あなたの) そのやり方はいい。 (あなたの) そのやり方をやめなさい。
「意見ことば」を使う あなたは正しいと思う。 あなたの意見に私は賛成できない。	「事実ことば」を使う あなたは正しい。 あなたの意見は間違っている。
感謝し共感する 協力してくれてありがとう。 やる気があるので嬉しい。	賞賛し叱咤激励する よく働いてえらいね。 もっと頑張るんだよ。

『続・アドラー心理学トーキングセミナー』野田俊作著 アニマ2001より

(注) アドラー心理学

オーストリアの精神科医であるアルフレッド・アドラー (A.Adler)が創始し、その後継者たちが発展させた心理学のことです。実践的な心理学として、様々な場面で活用されています。